

ISSN 1881 - 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発行：中山 迅
事務局：中西印刷株式会社 学会部内
URL：<http://www.jsse.jp>

.....
2014.2.15

NO.216
.....

科学教育研究レター



目 次

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ■ 組織改革2 | ■ 国際交流委員会だより9 |
| 法人化部会からの報告 | 国際学会参加報告 (15) |
| ■ 選挙3 | 国際学会参加報告 (16) |
| 役員選挙・代議員選挙のお知らせ | 国際学会参加報告 (17) |
| ■ 年会4 | 国際学会開催情報 |
| 第38回年会開催案内 (第3次) | ■ 編集委員会だより14 |
| ■ 研究会・支部だより7 | 「科学教育研究」編集状況報告 |
| 2013年度研究会開催のお知らせ | ■ 広報委員会からのお知らせ15 |

法人化部会からの報告

■ 一般社団法人日本科学教育学会の設立について

本学会は2014年1月6日付で「一般社団法人」になり、正式名称を「一般社団法人日本科学教育学会」に変えました。次の定時総会で「任意団体」が正式解散するまでは、ホームページや出版物などで学会の名称や情報が新旧混在することになります。会務運営が軌道にのるまで、引き続き会員の皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■ 規程案に対する意見募集について

法人化部会では、これまでの規程を見直し、法人対応の規程案を作成する作業を進めてまいりました（※）。その規程案を学会ホームページで公開して会員から意見を募ることにします。会員から寄せられた意見を受けて必要な修正を行い、法人の設立時理事による理事会審議を経て規程を制定します（※※）。

規程案をご一読いただき、ご意見・ご質問のある方は本ホームページ左メニューの「問い合わせ先／事務局（庶務）」よりお送り下さい（他のメールと区別するため、本文一行目に“学会法人化について”とご入力下さい）。意見募集は2月28日（公開より1ヶ月間）までとさせていただきます。

※「著者個人のwebサイトおよび機関リポジトリによる論文等の公開に対する基本方針」、「個人情報保護方針」については手を加えず、法人でそのまま継承することにしました。

※※4～6月に行う選挙準備のため、選挙管理委員会を早急に立ち上げる必要がありました。そこで、役員選任規程と代議員選挙管理規程については、設立時理事全員の同意を得て制定致しました（定款第46条）。規程の内容について、会員から意見があった場合は、後日改めて理事会で検討を行い、必要に応じて改定致します。

■ 法人化 Q&A（2014年1月改訂版）の公開について

法人化に際して科学教育研究レター215号で報告したような経緯があり、定時総会で承認された定款案の一部を変更しました。その結果、学会通信2013.08及びホームページで公開していたQ&Aの一部修正が必要になりましたので、その改訂版をホームページで公開致しました。お目通しいたくださいよう、よろしくお願い申し上げます。

■ シニア会員について

法人化に伴い、会員の種類に「シニア会員」が加わりました。「正会員として10年以上在籍し、満65歳以上で会員種類の変更の申請を提出した者」がシニア会員の条件です。シニア会員になると会費が半額になります。近日中に学会ホームページに変更手続きの案内を載せますので、条件に該当される方はご確認ください。

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

役員選挙管理委員会
代議員選挙管理委員会

2014年(平成26年)1月6日に、一般社団法人日本科学教育学会の設立登記が完了したことを受け、次年度(平成26年7月1日～)以降の新役員候補および第一期代議員の選挙を実施します。

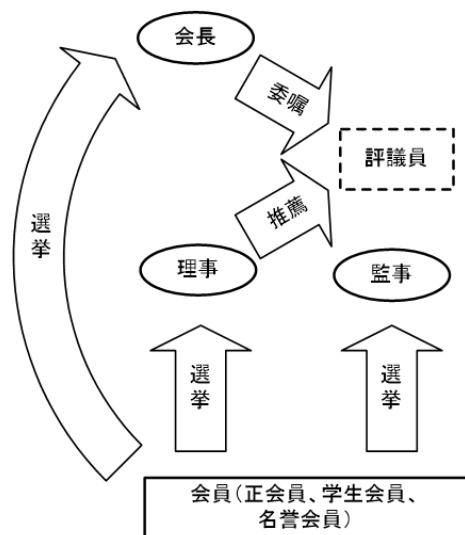
新役員選挙では、2016年(平成28年)まで任期のある役員は、そのまま一般社団法人の役員候補になり、今期で任期満了となる役員が改選となります。

代議員選挙は一般社団法人としてはじめて実施することになります。代議員は会員の代表として総会で議決権を行使します。そのため、年齢、性別、専門、地域などで偏りのない幅広い層から選ばれることが重要です。女性や学生・若手からの立候補・推薦も大いに歓迎します。

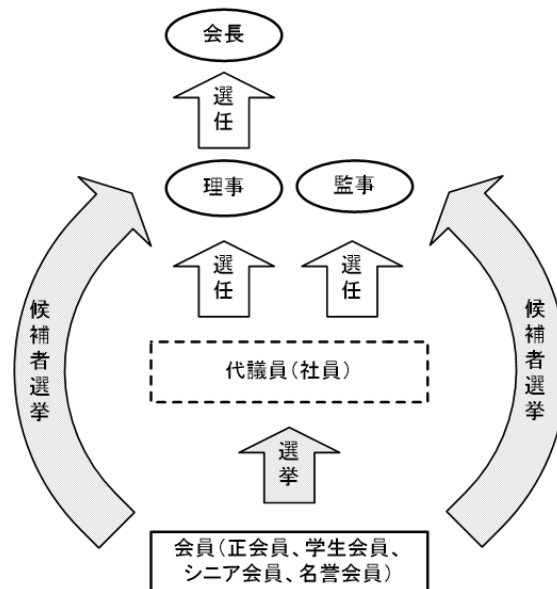
2月末から3月上旬にかけ、皆様のお手元に2つの選挙の候補者推薦に関する会告を発送いたします。

ご一読いただき、相応しい候補を推薦(代議員については立候補も可)いただきますよう、よろしくお願いたします。

任意団体のときの選挙



法人化後の選挙



第 38 回年会 開催案内 (第 3 次)

1. 日程 : 2014 年 9 月 13 日 (土) ~15 日 (月) (3 日間)
2. 会場 : 9 月 13 日 (土)・15 日 (月) : 埼玉大学 (大久保キャンパス)
(〒338-8570 さいたま市桜区下大久保 255)
<http://www.saitama-u.ac.jp/>
9 月 14 日 (日) : 大宮ソニックシティ (小ホール)、大宮ソニック市民ホール (集会室)
(〒330-8669 さいたま市大宮区桜木町 1 丁目 7-5)
<http://www.sonic-city.or.jp/>
3. 主催 : 日本科学教育学会 (後援 : 未定)
4. 年会実行委員会 : [実行委員長] 清水 誠
[実行委員] 浅田茂裕、小倉 康、二宮裕之、松寄昭雄
5. 連絡先 : 日本科学教育学会第 38 回年会実行委員会
〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保 255
埼玉大学教育学部 小倉 康
6. 内容 : 次の内容を予定 (詳細は年会 Web サイト及び次号『科学教育研究レター』で案内)
 - (1) シンポジウム
 - (2) 課題研究発表
 - (3) 一般研究発表
 - (4) インタラクティブセッション
例年通り、ポスター発表もしくは実演紹介の形態で、研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場である。
 - (5) その他の企画 : 総会、懇親会、若手の会、各種会合など

7. 課題研究の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とする。企画をお持ちの方は応募願いたい。

<スケジュール>

- ・企画受付締切 : 2014年5月9日 (金) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・受理審議 : 2014年5月10日 (土) ~5月15日 (木) 【年会企画委員会】
- ・審議結果報告 : 2014年5月16日 (金) 【年会企画委員会 → オーガナイザー】
- ・登壇者の最終確定 : 2014年5月30日 (金) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】
- ・原稿提出期限 : 2014年6月30日 (月) 【オーガナイザー → 年会企画委員会】

※6月30日は、登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく、オーガナイザーが登壇者全員の

原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（Webアップロード）する期限であるため、注意されたい。

<企画応募方法>

応募に当たっては課題研究申請用紙及び理由書を課題研究のWeb ページからダウンロードして、必要事項を記入の上、電子メールにて送信すること。

<企画応募先>

jsse-kadai [at mark] freeml.com

<応募に当たっての留意事項>

- ・オーガナイザー資格：会員でなければならない。
- ・登壇者（指定討論者含む）の確定：登壇者を企画受付締切までに確定すること。登壇者未定の企画は受理されない。なお、課題研究発表での登壇は1回とし、登壇者の重複はできない。登壇者を依頼される場合には、当該登壇者が他の課題研究のテーマにおける発表と重複されていないかどうかについて、登壇者自身に対して発表の重複ができない点を周知した上で、確認してほしい。

ただし、指定討論者については、重複を認める。

- ・登壇者資格：登壇者は会員、非会員を問わない。ただし、非会員による発表件数は、原則として全発表件数の半数を超えないものとする。やむを得ずに半数を超える場合は、企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込むこととする。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されない。非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えていて理由書が添えられている企画について受理するかどうかは、年会企画委員会で審議する。非会員による発表件数が企画受付締切時点（5月9日）で全発表件数の半数を超えておらずに受理された企画であっても、受理後にやむを得ない事情によって登壇者の変更がなされた結果、非会員による発表件数が全発表件数の半数を超えた場合には受理は取り消されるので、留意願いたい。

※ここで言う「会員」とは、学会事務局が入会申込書の受付（7月からの新年度入会のための申込書の受付を含む）を済ませていることを意味する。ただし、入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については、課題研究の企画受付締切日と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐ場合、企画受付締切日の年度ではなく、年会が開催される新年度からの入会でも可とする（他のセッションの発表についても、同様とする）。

<第37回大会に引き続き注意頂きたい点>

- ・一次受付がない。
- ・オーガナイザーは、ご自身で課題研究のWeb ページから課題研究申請用紙及び理由書をダウンロードすること。

8. インタラクティブセッションの申込・原稿提出

(1) 申込及び原稿提出の期限

2014年6月30日（月）

※申込と原稿提出を同時に行うこと。

※申込及び原稿提出の受付開始日は、決まり次第、学会 Web や科学教育研究レターなどで通知する。

(2) 申込及び原稿提出方法

申込者が直接、原稿提出用ホームページからアップロードすること。

詳細は「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要領」に従うこと。

(3) 発表資格・発表可能件数

インタラクティブセッションの登壇者は会員でなければならない。

登壇者として発表可能なインタラクティブセッションの件数は、1 件である。なお、インタラクティブセッションの登壇者は、一般研究、課題研究、その他の企画にも登壇することができる。

2013 年度研究会開催のお知らせ

2014年4月以降に開催する研究会については、下記の通りである。なお、案内及びプログラム等の詳細については学会ホームページに順次掲載するので、ご覧頂きたい。

(1) 2013 年度第 5 回研究会（北関東支部開催）

[テーマ] 科学教育の実践を繋ぐ

[日 時] 2014 年 4 月 6 日（日） 9:30~16:30（予定）

[会 場] 宇都宮大学峰キャンパス UU プラザ

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込み]

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、連絡用電子メールアドレス、連絡先電話番号、連絡先住所、使用機器を明記した E-mail を 2013 年度第 5 回研究会企画編集委員：久保田善彦まで送付して下さい。なお、発表時間は、発表 12 分、質疑応答 3 分、計 15 分を予定しています。発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail にてお知らせします。

[申込み先] 2013 年度第 5 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：久保田善彦

〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350 宇都宮大学教育学部

E-mail : *kubota [at mark] cc.utsunomiya-u.ac.jp*

[問い合わせ先] 宇都宮大学教育学部：日野圭子

Tel & Fax 028-649-5299 E-mail : *khino [at mark] cc.utsunomiya-u.ac.jp*

[申込み締切] 2014 年 3 月 7 日（金）

[原稿提出締切] 2014 年 3 月 23 日（日）

[その他] 当日午後には、北関東支部会議も行います。多くの方の発表申込みをお待ちしております。
その他、発表申込み等に関する詳細は、後日、学会ホームページでご確認下さい。

(2) 2013 年度第 6 回研究会（四国支部開催）

[テーマ] 科学教育における ICT 活用／一般

[日 時] 2014 年 5 月 10 日（土） 10:00~17:30

[会 場] 香川大学幸町キャンパス研究交流棟 5 階研究交流スペース
(〒760-8521 香川県高松市幸町 1 番 1 号)

[参 加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込み]

発表を希望される方は、氏名、所属、発表題目、E-mail アド レス、電話番号、連絡先住所、使用機器 を明記した E-mail を 2013 年度第 6 回研究会企画編集委員：林敏浩（香川大学）までお送りください。

[申込み先] 2013年度第6回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：林 敏浩
〒761-0396 香川県高松市林町 2217-20 香川大学総合情報センター
Tel&Fax : 087-864-2227 E-mail : *hayashi [at mark] eng.kagawa-u.ac.jp*

[申込み締切] 2014年3月15日(土)

[原稿提出締切] 2014年4月4日(金)

[その他] その他詳細は、学会ホームページでご確認下さい。

(3) 2013年度第7回研究会(中国支部開催)

[テーマ] 科学力の育成と教師教育

[日時] 2014年5月31日(土) 10:00~17:00

[会場] 島根大学教育学部 〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

[参加] 発表の有無にかかわらず参加できます。会員でない方もご参加いただけます。
参加費は無料です。

[発表申込み]

発表を希望される方は、下記の事項を明記の上、第7回研究会企画編集担当：栢野彰秀(島根大学)まで、メールにてお申し込みください。

- ①発表題名、②著者名(登壇者に○)、③所属、④連絡先住所・氏名・電話番号・電子メール、
- ⑤その他、発表に関する要望、⑥懇親会への参加・不参加

[申込み先] 2013年度第7回日本科学教育学会研究会・企画編集担当：栢野彰秀

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060 島根大学教育学部

Tel : 0852-32-6307 (内線 3685) E-mail : *a_kayano [at mark] edu.shimane-u.ac.jp*

[申込み締切] 2014年5月7日(水)

[原稿提出締切] 2014年5月16日(金)

原稿は、栢野彰秀宛に Word ファイルと pdf ファイルを送ってください。

※発表原稿様式等については、発表申込みがあった方に E-mail でお知らせします。

[その他] その他詳細は、学会ホームページでご確認下さい。

(4) その他の研究会開催予定(予告)

第8回研究会(東海支部開催) 2014年6月/会場：三重大学教育学部

国際学会参加報告 (15) —ASE2014—

英国科学教育学会 (Association for Science Education) の年次大会が、2014年1月8～11日、イングランド中部のバーミンガム大学で開催された。大会テーマは、**Excellence in Science Education: Taking on the Challenge of Change** であった。8日は国際デーで、15件の発表、9～11日には約250件の発表やワークショップなどがあった。このほかに半日程度のテーマ別ショートコースも28件開設された。年次大会ハンドブックでテーマ別に発表件数を見ると、新カリキュラム、教育実践という2つの種別に属するものが圧倒的に多く、これらに、評価、初等理科、教育機器の活用、教育政策などが続いている。

参加者は科学教育の研究者、教師、出版関係者などであるが、大学生の参加も目立った。大会が、教員養成段階における学生にとってよい学習の機会となっていると思われる。さらに、フロンティアサイエンスと称した講演 (計26件) も開設されていた。これは、会場校であるバーミンガム大学所属の数学、科学、工学等の研究者が、自身の専門領域から最新の知見を提供するものである。これも、現職教育の一環として、自然科学の内容を学ぶよい機会になっているようである。

全体的に見て、新カリキュラムに関する研究発表が多かったように思う。この理由を現地の大学所属の研究者にたずねたところ、「2013年9月にナショナルカリキュラムの学習内容の改訂があり、それが2014年9月から学校現場で実施となるため、皆の関心が高いのであろう」とのことであった。

筆者が聴講したもののうち評価に関する発表のひとつは、生徒の理解の状況を、ナショナルカリキュラムで設定されている目標とどのように結びつけて評価するかに関心を寄せ、ノートの記述をレベル別に評価する方法の検証についてであった。生徒が書き残す文章や図をもとに、詳細に評価していく手法が紹介された。参加者の感想では、経験豊かな教師から見れば実践可能である、しかしそうでない教師にとっては困難なので複数で評価すべき……などの意見が活発に出された。中等教育修了試験 (GCSE) をはじめとして、生徒と教師の双方にとって、評価が大きな関心事であることが伝わってきた。

来年の年次大会の情報は現在のところウェブで未公開であるが、事務局スタッフによれば、2015年1月に、南部のレディング大学 (University of Reading) で開催予定とのことであった。

ホームページ <http://www.ase.org.uk/>

(宇都宮大学教育学部・人見久城)

国際学会参加報告 (16) —CoSMEd 2013—

2013年11月11日～14日にかけて、マレーシアの東南アジア教育大臣機構・理数科教育センター (SEAMEO-RECSAM) において CoSMEd 2013 (International Conference on Science and Mathematics Education) が開催されました。本大会は隔年開催で、本年度は2011年に続く第5回目にあたり、“Empowering the Future Generation through Science and Mathematics Education” が全体テーマとして据えられました。基調講演2件、プレナリー・セッション5件、シンポジウム発表3件に

加え、ポスター・プレゼンテーション 23 件、口頭発表 125 件、授業実践の紹介 30 件で構成されました。教員の参加率が高いこと、また授業実践に関する発表の場があることが本大会の特徴といえます。例えば、以下のようなタイトルの発表がありました。

- Validation and Field Try-out of the Programmed Instruction in Chemistry for Secondary Students (フィリピン)
- Modeling Instruction™ Empowering Students in the 21st Century Science Classroom (アメリカ)
- A Study of Mangrove Ecosystem at Tanjung Emas Muar Using Project-Based Learning (マレーシア)
- The Use of “Penta-BTOSS” Chart to Improve Year Five Pupils’ Problem Solving Skills in Dealing with Mathematics Word Problems (マレーシア)

参加者の大半はマレーシアからですが、海外からの参加・発表も多くあり、インドネシア (21 件)、シンガポール (3 件)、タイ (20 件)、フィリピン (23 件)、ブルネイ (11 件)、ベトナム (1 件)、オーストラリア (9 件)、香港 (1 件)、台湾 (3 件)、クウェート (1 件)、南アフリカ (2 件)、ナイジェリア (2 件)、アメリカ合衆国 (2 件)、メキシコ (1 件)、と、国際色豊かで盛況でした。日本からは私を含め 5 件の発表がありました。合計で 404 名の参加がありましたが、9 月末日に開催された ICASE (The International Councils of Association for Science Education) の World STE 2013 と開催国が重なったため、海外からの参加者は若干そちらに流れたかもしれないとのことです。

この CoSMEd は前回大会の第 4 回より、査読を通過したフルペーパーは、RECSAM 編著のもと、本として出版されています。前回大会は、“Transforming School Science/Mathematics Education in the 21st Century” というタイトルで、理科と数学でそれぞれ出版されました。今年度は、上記の大会テーマをタイトルとして出版されます。日本人の参加が少なく、今後投稿が増えることを期待しているとのことです。

次回大会は 2015 年に開催予定です。詳細情報は RECSAM および CoSMEd 2013 のウェブサイトをご参照ください。

SEAMEO-RECSAM ウェブサイト：<http://www.recsam.edu.my/index.html>

CoSMEd 2013 ウェブサイト：<http://www.recsam.edu.my/cosmed/>

(広島大学大学院国際協力研究科・高松森一郎)

国際学会参加報告 (17) -EASE-APCTP Winter School 2014-

2014 年 1 月 12 日～18 日の日程で、韓国ソウル市の Ewha Womans University (梨花女子大学) において、East-Asian Association for Science Education (EASE) -Asia Pacific Center for Theoretical Physics (APCTP) Winter School 2014 が開催された。今回の Winter School は 2010 年、2012 年の EASE Summer School に続く第 3 回目である。中国本土、香港、台湾、韓国、日本からそれぞれ先生、コーチ、大学院生が参加し、総勢 28 名で行われた。日本からは、大辻永先生 (茨城大学)、コーチとしてエイプリル・ダフネ先生 (千葉大学)、そしてアリス・ラロダー (東京理科大学)、雲財寛 (広島大学)、山田真子 (広島大学)、吉田実久 (コペンハーゲン大学) の計 6 名が参加した。

ソウル市は連日気温が 0℃を下回り、日本からの参加者は寒さに驚きつつも 5 日間英語での議論と交

流を行った。プログラムは、各地域から招かれたゲストスピーカーからのレクチャー、ポスタープレゼンテーション、Culture Visit や Welcome Party、Banquet など参加者同士の交流、そしてグループディスカッションで構成される。グループディスカッションでは、各地域 1~2 名ずつ合計 5 人前後でグループを組み、コーチの指導を受けながら国際共同研究のプロポーザルを作成し、発表する。異なるバックグラウンドを持った学生同士で一つのプロポーザルを作り上げるのは難しいが、自分のこれまでの経験が試される場でもあるため、とても刺激的である。

英語での生活、他地域他分野からの学生との交流について、参加者からは次のような感想が述べられた。「5 日間英語を聞き続けたことで、聞き取りが出来るようになって、自分の意見をすぐに英語で言うことが出来ずにいたので、次回はもっと英語でコミュニケーションが取れるようにしたい。(雲財)」、「普段聞くことの無い研究分野について聞くことが出来、また異なる背景を持つ人々に自分の研究を発表することは、とても勉強になりました。(山田)」、「EASE Winter School opened opportunities for me to work with other PhD students from other countries, benchmark what I need to learn, establish network of friends, work for a regional research proposal and envision the challenges science educators face and how to resolve them. (アリス)」

私は 2012 年北京で行われた Summer School 以来、2 度目の参加となった。この School で東アジアに居る他の学生と交流することは、自分の研究について深く掘り下げ、かつ研究に対する視野を広げることができる。それと同時に、多くの友人が出来る良い機会でもある。前回の Summer School 参加後、インターネットを通じて参加者同士で文献を紹介したり、学会の情報を交換したりしてきた。また、2013 年の EASE Conference では、Summer School 参加者で久しぶりに顔を合わせ互いの近況を報告し、励まし合うことが出来た。5 日間、朝から晩まで英語で議論を交わすのは大変な部分も多いが、それを補って余りある「楽しさ」がこの School にはある。そして、この経験は必ず自分の研究や将来の糧となっていくと思っている。次回開催の詳細は決まっていないが、次回の School でも日本から多くの学生に参加して欲しい。必ず「行って良かった」と思える School になると思う。この School に興味を持ってもらえるよう、今回出来たつながりを大切に、次回につなげていきたい。

EASE のホームページ: <http://new.theease.org/>

EASE Winter School: <http://new.theease.org/read.php?bdid=4&msid=177>

(コペンハーゲン大学科学教育研究科・吉田実久)

国際学会開催情報

— 教育工学系、学習科学系、数学教育、理科教育、技術科教育に関する国際学会 —

教育工学系、学習科学系、数学教育、理科教育、技術科教育に関する国際学会として、今後、下記が予定されている。詳細については、各ホームページをご参照いただきたい。

1. 教育工学系

(1) ED-MEDIA2014 (World Conference on Educational Media and Technology)

開催地: フィンランド、Tampere

期間: 2014 年 6 月 23 日~27 日

締切：2014年4月16日（第2次募集）

<http://www.aace.org/conf/edmedia/>

(2) E-LEARN 2014 (World Conference on E-Learning)

開催地：アメリカ、Louisiana州、New Orleans

期間：2014年10月27日～30日

締切：2014年5月30日（第1次募集）

<http://www.aace.org/conf/elearn/>

(3) ICCE2014 (The 22nd International Conference on Computers in Education)

開催地：奈良県新公会堂

期間：2014年11月30日～12月4日

締切：2014年5月上旬（TBA）

<http://icce2014.jaist.ac.jp/>

2. 学習科学系

ICLS2014 (International Conference of the Learning Sciences)

開催地：アメリカ、Colorado州、Boulder

期間：2014年6月23日～27日

<http://www.isls.org/icls2014/>

締切: Doctoral Consortium, Early Career Workshop のみ 2014年2月7日まで(他は締切済)。

(専修大学ネットワーク情報学部・望月俊男)

3. 数学教育

(1) International Conference on Mathematics Textbook Research and Development 2014

開催地：イギリス、Southampton、University of Southampton

期間：2014年7月29日～31日

締切：2014年6月15日（論文投稿締切）、2014年6月30日（参加申込締切）

<http://blog.soton.ac.uk/icmtrd2014/>

(2) ATCM 2014 (The 19th Asian Technology Conference in Mathematics)

開催地：インドネシア、Yogyakarta、State University of Yogyakarta

期間：2014年11月26日～30日

締切：2014年6月1日（論文要約および完全原稿締切）

<http://atcm.mathandtech.org>

(信州大学教育学部・宮崎樹夫)

4. 理科教育

NSTA2014 (National Conference, National Science Teachers Association)

開催地：アメリカ、Massachusetts州、Boston

期間：2014年4月3日～6日

締切：2014年3月7日（Advance Registration 締切）

<http://www.nsta.org/conferences/national.aspx>

5. 技術科教育

ITEEA2014 (The 76th Annual Conference, International Technology and Engineering Educators Association)

開催地：アメリカ、Florida 州、Orlando

期間：2014 年 3 月 27 日～29 日

締切：2014 年 2 月 21 日 (Pre-registration 締切)

<http://www.iteea.org/Conference/registration.htm>

(宇都宮大学教育学部・人見久城)

「科学教育研究」編集状況報告

前回（2013年11月16日）以降、この間に編集理事会は開催されていませんので、「科学教育研究」編集状況の報告のみとする。

1. 新規投稿論文（2013.11.1～2014.2.4）：16編（内訳：和文15編、英文1編）
2. 査読中論文（2014.2.4現在）：33編（内訳：担当編集委員選定中：6編、査読者選定中：1編、査読中（1回目）：7編、担当編集委員による総合判定中（1回目）：1編、改訂稿待ち：12編、査読中（2回目）：6編）
3. 掲載決定論文（2013.11.1～2014.2.4現在）：6編（内訳：研究論文5編、プラザ：1編（通算合計38-1：5編、38-2：1編））

次回、平成25年度第2回編集理事会は、2014年3月15日（土）、午前11時から13時、場所はコクヨ品川オフィスを予定している。

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成26年2月4日 現在）

	新規投稿論文数		審査中論文数		掲載決定論文数(掲載号)		招待論文数(掲載号)		掲載不可論文数	
	和文	英文	和文	英文	和文	英文	和文	英文	掲載不可	辞退
2013年 3月	12	0	31	0	5 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0	2 (37-2)	7	0
4月	3	1	32	1	0 (37-2) 0 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		2	0
5月	4	0	24	1	0 (37-2) 4 (37-3)	0 (37-2) 0 (37-3)	0		8	0
6月	5	0	23	1	2 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		3	1
7月	11	0	30	0	1 (37-3) 0 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		4	0
8月	6	0	28	0	0 (37-3) 1 (37-4)	0 (37-3) 0 (37-4)	0		7	0
9月	9	1	29	1	3 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		4	1
10月	16	0	37	1	1 (37-4) 0 (38-1)	0 (37-4) 0 (38-1)	0		7	0
11月	6	1	36	2	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		5	1
12月	5	0	35	1	2 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		4	1
2014年 1月	4	0	32	1	1 (38-1) 1 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		3	2
2月	0	0	32	1	0 (38-1) 0 (38-2)	0 (38-1) 0 (38-2)	0		0	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 216 号をお送りいたします。お気づきの点などございましたら、学会 Web サイトにある「お問い合わせ」(Web メール)をご利用のうえ、お知らせください。

担当理事：久保田善彦 (宇都宮大)	谷塚光典 (信州大)
委員：縣 秀彦 (国立天文台)	銀島 文 (国立教育政策研究所)
稲垣成哲 (神戸大)	東原貴志 (上越教育大)
今村哲史 (山形大)	山口武志 (鹿児島大)
幹事：内ノ倉真吾 (鹿児島大)	小松孝太郎 (信州大)

科学教育研究レター編集・印刷 日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会

Japan Society for Science Education

URL : <http://www.jsse.jp>

□事務局 中西印刷(株) 学会部 内
□事務支局 (入退会・会費・学会誌発送関連)

TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
E-mail : [jsse \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内
□編集事務局 (論文投稿・査読編集)

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
TEL : 075-415-3155 FAX : 075-417-2050
E-mail : [jsse-hen \[at mark\] nacos.com](mailto:jsse-hen[at mark]nacos.com)

中西印刷(株) 学会部 内 〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座 : 00170-6-85183 日本科学教育学会
銀行口座 : みずほ銀行 京都中央支店 普通 2269008 日本科学教育学会